

「花サボ会」の沿革（地域住民の学校支援体制作り）

1. 平成16年度より、地域住民参画型の学力向上推進校の研究取り組みが開始。地域住民6名が支援員として、担任を補助する形で授業に参加する。「学力向上部」の始まりで、2年間の研究後も支援が継続され、現在に至る。また、これを機に、学校との協力で「家庭科支援」「花壇」「安全見守り」分野でボランティア活動が友達紹介の形でスタート。
2. 柏市のブックスタート参加者とその友人らで、低学年に「読み聞かせ」を18年度より開始し、現在に至る。
3. 支援員の発案で毎週金曜日に漢字テストを行い、ボランティアが採点し返却する「漢字支援」が18年度より始まる。
4. 山崎支援員が、18年度に、高学年対象に「学習クラブ」を放課後に開設（後にステップアップ講座に相乗りし、現在に続く）
5. 平成20年度に花野井小の取り組みがNHKの「首都圏ネットワーク」で取り上げられ、その後全国版でも放映され注目を集める
6. 平成22年度に、ボランティアの組織化を図るため、「安全見守り」「家庭科支援」「花壇づくり」「パソコン指導支援」の中心人物と、上記「学力向上」「漢字」「読み聞かせ」「ステップアップ」の代表者が一同に会し、8部会からなる「花サボ会」を結成。
年一度の連絡会開催で、問題点の共有、共同でのボランティア募集活動等を行うことになり、現在に至る。

回覧板、掲示板、PTA用募集チラシ、口コミ、友達紹介等でボランティアを募集。毎年春に募集し、5～6名の応募があり、面接の上採用。
7. 最大で、のべ70人が参加していたが、現在、漢字部とパソコン部の活動を停止して、のべ50人程度のボランティアが活動している。
8. 平成22年1月に、ステップアップ講座のボランティアと地域ガス会社の協力で、「カールじいさんの家は、何個の風船で飛ぶ？」の実験開催。
話題を呼び朝日新聞全国版、民放放送局で取り上げられ話題となる。
9. ボランティアと児童の交流を図るため、給食時にボランティアを教室に招待。
10. 平成30年度より、「ボランティアとの対面式」「花サボ感謝の会」が児童会主催で開催される。

問題点

1. 以前に比べボランティア応募者が少なくなっている（有料ボランティアの増加、競合）
2. 新型コロナウイルス感染予防のため、一部を除きボランティア活動ができなくなっている。

課題

1. ボランティア募集方法の再検討。
2. 会員のコミュニケーションの活性化
3. コミュニティスクールへの移行を踏まえての体制作り
4. 懇親会等、ボランティア各部の交流を深める
5. PTAの参加割合の増加を図る
6. 地域ボランティア団体とのタイアップ